

北京五輪での奮闘を糧に

金沢学院 3 選手が報告会



西日本大会で完全制覇

8月26日から9月2日まで福岡県で開かれた第48回西日本学生バドミントン選手権に出場した金沢学院大学チームは男子団体で初優勝し、個人でもシングルスで吉田昇選手(3年)、ダブルスも伊東克範(3年)・山田和也(3年)が制して完全制覇を果たしました。

いしかわ総合スポーツセンターで10月3日から開かれる全日本学生選手権での活躍が期待されます。



石田学長に西日本大会での初優勝を報告するバドミントン部員 = 学長室

指して頑張つてほしい
と激励しました。

八月の北京オリンピックに出場した金沢学院所属の新谷義人（法人職員、ウエイトリフティング男子69キロ級）、齋藤里香（東高校教員、同女子69キロ級）、中川真依（大学3年、水泳女子高飛び込み）の三選手は九月十七日、同大学で開かれた報告会に臨み、教職員百六十人を前に、五輪での奮闘と今後の抱負を語りました。飛田秀一理事長が「石川県の一つの大学から二人ものオリンピック選手を出したことを誇り思つていい」と三選手の奮闘をたたえました。同級10位だった新谷

富山が舞台の現代小説 文学部公開講座で解説



新谷義人選手

齋藤里香選手

中川真依選手

金沢学院大学文学部の
公開講座「富山の現代文
学、その魅力をさぐる」

は九月七日 富山県高岡文化ホールで開かれ、約二十人が聴講しました。

山下久夫、秋山稔、田邊正彰教授、藤際子准教授、寺田智美講師の日本文学科五教員が、昨年秋に同科編として発行した『ほくりく文学紀行』で取り上げた富山が舞台の小説について、取材の工ピソード、作者と富山のかかわり、作品の読みどころと訴えるものなどについて解説しました。

出席者は身近な場所が出てくる小説の魅力に触れ、さっそく『ほくりく文学紀行』を買い求める姿も見られました。

金沢学院大学経営情報
学部の公開講座「企業と
コンプライアンス」は九
月二十七日午後一時から
北國新聞会館内の金沢学
院サテライト教室で開か
れます。基調講演の講師
は西村あさひ法律事務所
の弁護士、大宮正氏です。



石田学長は「良きアスリートとして後輩のけん引車になつてほしい」と激励しました。

石田学長は「良きアスリートとして後輩のけん引車になつてほしい」と激励しました。